

四谷の

千枚田だより



第 221 号

八石、真菰村
二十四石、方
瀬村 六十二
石の記録が
あるが、石高
は米の生産

四谷の千枚田 その起源を探る

四谷の千枚田はいつ頃からあった(耕されていた)ものか、記録(文献)が乏しく、全く不明のままである。私は各市町村から発行している市町村史(歴史編)などを参考に、おむね室町時代には…とか、四百年前には…、また、大きく七百年前には既にあったであろう。などと話したり執筆もしてきた。四谷の千枚田が有名になるに従い、多くの知見者からの問い合わせがあるし、間違いもある。そこで、身近にある書籍(文献)からいくつか紐解いてみた。

○ 太閤検地(1580)以降、土地生産高を米の量に換算したものを「石高」と言う。

その石高で表示された文献が鳳来町誌 歴史編(平成六年)にあった。これを紐解くと、天正十八年(1590)の石高(村高)が記載されている。その後、海老菅沼氏(俗称)慶安元年(1648)領地目録(三千石)に於いても当地に於ける石高の変動があまりないことから前者を参考にした。

大代村 四十三石、大林村 三十七石、布留宿村(古宿) 二十三石、身平橋村 百五十石、小野村(与良木) 四十

量ばかりでなく、他の農作物を米の単価に換算したものも含まれており、参考とした。

○ 田楽は平安時代中期(880~1080年)には稲作に関する芸能で「田植之前に豊作を祈る田遊び」として発祥、伝承されてきた民族芸能である。この地方では、鳳来寺田楽が源となり、黒沢田楽、田峯田楽(ともに国指定重要無形民俗文化財)が現在も行われている。田峯田楽は「文明二年(1470)田楽、道員津薬師堂より御引取被成候」との記録がある。その、流をくむ四谷田楽(昭和十四年を最後に途絶えた)も農家の歌舞として行われていた。そのルーツを辿ると、享保九年(1724)に筆写した田楽帳がある。これは、筆写であること、また田楽を大代村と継承していた小代村が慶安元年(1648)に現設楽町に分村した経緯がある。

田楽は、天文十三年(1544)頃から「放下」、「はねこみ」が行われるようになったとも記されている。

○ 田内郷

西田内伊豆神社の天文九年(1540)の棟札に「田内郷」の銘がある。田内郷は東田内、西田内、小代、

塩津、大代、田代(神田)、平山の各村を包括していたと思われる。(設楽町誌 通史編 平成十七年)

余談ではあるが、田内郷の各村は鞍掛山を囲む場所にあり、地名の多くが「田」や「代」に纏わることから推察しても、すでに、稲作は行われていたと思われる。

また、江戸時代に年貢米を一時保管したり、飢饉や災害に備えて穀物を貯蔵するための郷蔵(設楽町有形民族文化財)は西田内に郷倉として現存する。



田内の郷倉 R4年2月8日撮影

○ 村の生いたち
水稻耕作を基本とする日本の「村」

では、水利慣行(新田開発)や山川藪沢(棚田など)の利用などから発し、領主が農民に課せる年貢割付(村石)を各村ごとにまとめて供出した。「海老風土記」から紐解くと、大宝元年(701)大宝律令が制定された直後から大代村、大林村、古宿村、身平橋村に区分されており、明治十一年(1878)四谷村に、豊真村、小野村、須山村は連合村となった。

これらの文献(写真)をもとに考察すると約四百年前には、すでに棚田(四谷の千枚田)があったであろうと、もともとと、遡って大宝律令が制定された千三百年も以前から、この地(四谷の千枚田)では稲作が行われていたことも、あながち間違っていない。と推量した。(舜)



使用した文献

生産活動

一月三十日、中山間地域等直接支援制度(直払い)四谷集落協定は生産活動の一環とした環境保全活動を実施した。



作業は、ふれあい広場に徒歩で歩く穴ぼこ道の補修、同用水路の分岐付近の整備、十王堂付近の除伐、千

枚田中間地点(中島)の沢沿いの除伐・整備を四班に分かれ、実施した。



田起し&田んぼ跳び

地元鳳来寺小学校の五年生は校外学習の一環として、多様性に富んだ「四谷の千枚田」で稲作体験を通じた勉学に勤しんでいる、



例年、十二月に五年生と四年生は新学期の引継ぎとして田起しと田んぼ跳びを行ってきたが、各種学校行事と重なり、新年を迎えた十八日、雪の降る中、田起しを行った。



田起しを終えた子供たちは、待ちかねたとばかり田んぼ飛びに挑戦。怪我もなく、ワイルドな遊戯に子供たちの嬉々とした表情が、なんとも爽やかであった。

節分

季節の変わり目である節分は邪気を祓い清め、一年間の無病息災を祈る行事で、神社仏閣や、一般家庭でも「鬼は外：福は内：」と豆まきが当たり前に行われている。昨今では「恵方巻」とかも流行っているようだ。

我が家では、火で炙ったイワシの頭をクロモジの枝に刺してヒイラギとアセビを一緒に束ね玄関に飾る。所以は、炙ったイワシは臭く、ヒイラギは鬼の目を突く、アセビ(馬酔木)は有毒植物で馬でも誤って食べると苦しむほどの毒を持ち、鬼でも退散するらしい。クロモジは丈夫(健康)の意味があるそうだ。



雪降りの多い冬

作年末の十二月二十六日、三十一日、年明けの六日、十三日、十八日、二月五日、六日と最近では珍しく降雪日が多い。

昔から、「雪が多い年は豊作だ：」と言われていた。そういえば、ここ数年、台風被害、冷夏、獣害等々、不作で泣かされた。今年こそは豊作を念じ、勤しもう。

行 令和四年二月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二